富山型伝統木造軸組構法

平成20年12月4日に国土交通省による伝統的木造軸組構法の実物大住宅の性能検証震動台実験が兵庫県三木市の独立行政法人防災科学技術研究所兵庫県耐震工学研究センター実大三次元振動破壊実験施設（E-ディフェンス）において実施された。その際、試験体として用いられた実務者による基本設計の平面計画を富山に根差した富山型の伝統構法で作った実物4分の1模型の写真を掲載。材料寸法や仕口･継手の寸法が全て4分の1となっている。

富山型の伝統構法は富山の気候風土に対応したものである。北陸は水分を多く含んだ重い雪の降る豪雪地帯として有名だが、夏の暑さもフェーン現象のため日本一である。雨が多く湿度も高い地方なのである。

「重い雪を支える富山の架構。丸太梁が＜渡りあご＞で交差している。組み上げた梁は揺れを吸収し、地震にも強い。」

「雪だけなら軒を長くする必要はない。晴れても夜露は下りる。軒で覆えば寿命が違う。差し根太で風を通すから長持ちする。」

その富山で築２００年～３００年の木造建築を解体･移築･再生を数多く手掛けた経験をもとに伝統構法の木組みを富山の職藝学院で学生に指導している。
この模型もその経験をもとに架構計画を行い、学院の研究科2年目の学生に製作させた。この研究生は5年の大工経験がありながら、伝統構法を学びたいと入学してきた男性である。約2.5ヶ月の時間をかけて完成した。現在、次の課題の4分の1模型に取組んでいる。

大工の卵を育てる職藝学院。建築実習では島崎棟梁が伝統構法の基礎を教える。2年コースの2年目には実際の仕事を受注。学生全員が木を何本か担当して削り、全員で組み上げる。

「失敗が絶対許されない仕事に取り組むと、緊張感がまるで違うから、ぐっと伸びる」

学院の実習棟も廃校となった学校を学生たちで移築再生したものだ。

「家を１００年保たせるには、どうすればいいのかと聞かれる。簡単ですよ、１００年経った家を壊してみればいい。法規はたった今のことだけをいう。新築ばかり見てたんじゃだめだ。」

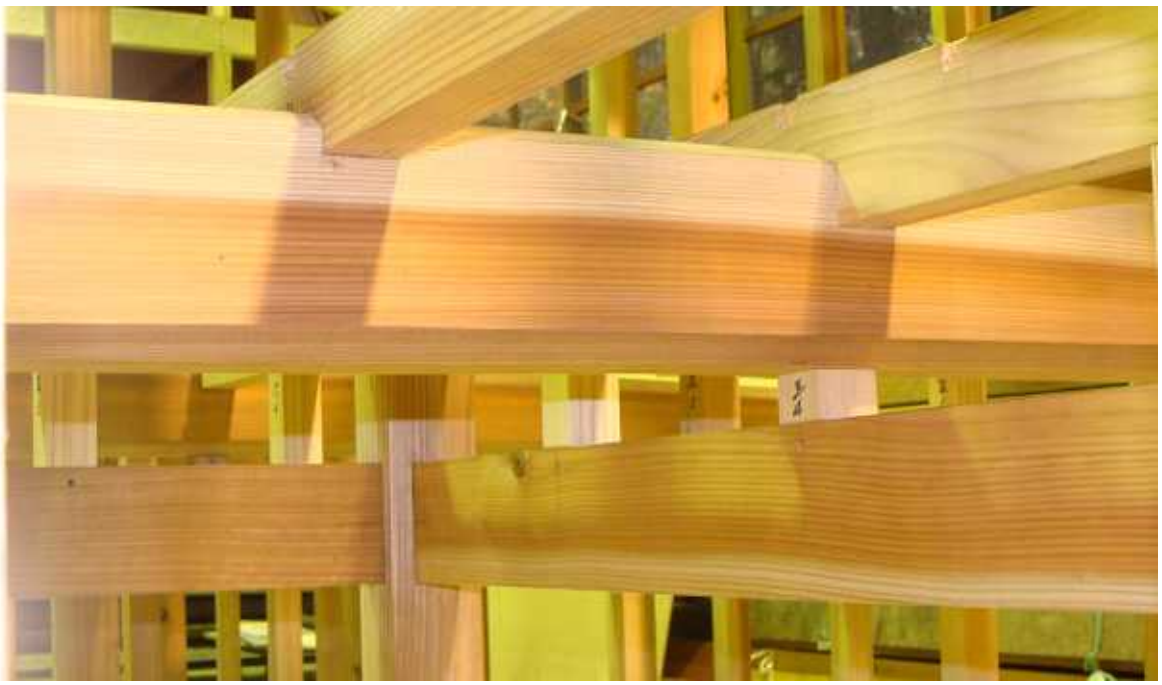
4分の1模型　全景

4分の1模型　全景

長柱と差鴨居、胴差

差貫

2階床組



差鴨居と掬梁

小屋梁

小屋組

出し梁と天梁

出し梁と天梁